

会 議 録

審議会等名	第2回川西市補助金等審議会		
事務局 (担当課)	企画財政部 政策推進室 行財政改革課 内線(2112)		
開催日時	平成20年6月30日(月) 18時30分～20時18分		
開催場所	川西市役所4階 庁議室		
出席者	委員	井本 洋 土山 希美枝 中井 和久 中川 幾郎 中谷 一彦 渡部 尚史	
	事務局	企画財政部長、政策推進室長、政策推進室行財政改革課長、 政策推進室行財政改革課長補佐、政策推進室行財政改革課主査、 政策推進室行財政改革課主任	
傍聴の可否	<input checked="" type="checkbox"/> 可・不可・一部不可	傍聴者数	0人
傍聴不可・一部不可の場合は、その理由			
会議次第	(1) 川西市の補助金の現状について (2) 類似する補助金等について (3) その他		
会議結果	(別紙会議録のとおり)		

審議経過

発言者	発言内容
会長	<p>それでは、ちょうど定刻となりましたので、開催させていただきます。</p> <p>最初に事務局より、本日の委員の出席状況と、傍聴人等についてのご報告をお願いいたします。</p>
事務局	<p>本日の委員の出欠を報告させていただきます。本日の委員の欠席はなく、全員出席していただいておりますので、審議会は成立していることをご報告申し上げます。</p> <p>あと、傍聴される方ですけれども、きょうは公開ということになっておりますが、今のところ傍聴の方はおられません。以上でございます。</p>
会長	<p>はい、ありがとうございます。</p> <p>それでは、本日の審議会が成立しているというご報告をいただきました。</p> <p>なお、傍聴人は現在おられないということでございます。</p> <p>きょうの会議につきましては、概ね2時間程度の予定をさせていただき、午後8時30分を閉会の目安とさせていただきたいと存じますが、この時間の範囲内ではございますが、できるだけ時間の許す限り、ご熱心なご討議をお願いいたしたいと思っております。</p> <p>では、早速議事に入らせていただきます。</p> <p>前回から約3週間ほどたっておりますがこの審議会で審議する内容について、もう一度、整理確認しておきたいと存じます。</p> <p>まず、1番目に減免や優先利用と補助金の整理を行うこと。</p> <p>2つ目に、類似する補助金、いわゆる同種・同類補助金の整理を行うこと。</p> <p>3つ目に、これまでの3つの基準だけではなくて、新たな補助金の評価及び公表手法を提言すること。</p> <p>最後に補助金公募制度の創設ということでございました。ただし、この公募制度につきましては、21年度以降に市民参加条例とセットで実現したいということですので、今回は踏み込んだ議論は行わないでおこうということでございます。</p> <p>これらの全体的な方向性の中で、類似する補助金の整理をするためには、まずは実態把握が必要ではないか、行政内部や補助金の交付団体に対するアンケート調査が必要だということになっておりました。それで、今回は事務局のアンケート案をたたき台といたしまして、実施するアンケートの内容を決定したいと考えております。</p> <p>それでは、議題第1番目の川西市の補助金の現状について、前回とは少し異なった切り口からご説明くださるということでございますので、事務局さんよりご説明をお願いいたします。</p>

<p>事務局</p>	<p>それでは、資料1のA3横の資料に基づいて、まず説明させていただきたいと思います。</p> <p>この資料1ですが、作成した目的は、補助金のそれぞれ交付対象事業と、事務局がどこにあって、役員の重複がどうなっていて、対象事業が類似している他の補助金がどのようなものがあるかという内容を整理したものでございます。整理の仕方としましては、各担当課が持っています内部資料に基づいて作成したものでございます。</p> <p>まず、この表の見方ですが、ナンバー2、3、4から始まっておりますが、これにつきましては、前回お渡ししております補助金一覧表の通しナンバーとあわせております。</p> <p>ここでナンバー9、コミュニティ活動事業補助金について、これを中心に説明させていただきたいと思いますが、まず交付先としまして各地区コミュニティ推進協議会、補助金の対象事業、これは各補助金交付要綱に定められているものを元に記入しております。ですので、スポーツレクリエーション事業、文化事業、環境活動事業等複数の事業を実施しているという形になっております。</p> <p>そのコミュニティ活動の事務局がどこにあるか、これは空白になっておりますが、各課の方、現在、参画協働・相談課が所管しておるんですけども、担当課としては、すべて把握仕切れていないという形で示しております。ですので、例えば、ナンバー6にございます黒川地区地域文化振興事業運営委員会ですが、こういった把握している団体の場合は記入しておりますが、把握していない団体は空白となっております。</p> <p>次の役員重複団体名、これにつきましても、対象団体に調査をかけて各課がつくったわけではございませんで、全ては、各課が把握できている内容に基づいて作成しております。</p> <p>コミュニティ活動事業の場合は、このコミュニティ委員が他の団体で活動されているということになっておりますので、参画協働・相談課の方では、大本になっているコミュニティ委員会のみ把握ということ、重複団体も把握していないという形になっております。</p> <p>これが下の方のナンバー20、スポーツ振興会補助金になってきますと、役員重複団体につきましては、体育協会、少年団軟式野球連盟等という形で出てまいります。</p> <p>次に、類似事業実施補助金名ですが、スポーツレクリエーション事業であれば黒川地区地域文化スポーツ振興事業と、小学校区体育振興会補助金という形で、事業目的ごとに類似している事業をあげております。</p> <p>この例えば福祉向上事業でありましたら、デザイン広場づくり事業補助金、川西ジョイフルフレンドクラブ活動補助金、川西青少年育成市民会議補助金と類似しているということになります。この、福祉デザインひろばづくり事業補助金の方であれば、次の2ページをおめくりいただきまして、ナンバー35ということで真ん中あたり、福祉デザインひろばづくり事業補助金の類似事業実施補助金名として、例えば、子育て支援、高齢者、障害者(児)、児童などの交流事業というところにコミュニティ活動事業補助金があがってくるという形に</p>
------------	---

	<p>なっています。</p> <p>これを早見表としてまとめたものが資料A 4横のものです。ここで縦軸に左から川西PTA連合会補助金から、右端地域交流スペース事業補助金という形であげております。ここにどういった形で、横にまたがっているかということを表示しております。地域交流・連携事業、世代間交流事業あるいは社会・家庭環境対策事業でございましたら、PTA連合会補助金、幼稚園PTA連合会、青少年育成市民会議と重複しておるということをまとめた資料でございます。</p> <p>以上でございます。</p>
<p>会長</p>	<p>はい。</p> <p>ただいまの資料につきまして、何かご質問いただきたいと思います。あくまでこれは事務局さんからの行政機構を通じて、各課へ照会をかけて作成されたということでございますので、市が掌握しておられる範囲のことは網羅されているという前提でございます。</p> <p>何かご質問、ご意見ございませんでしょうか。</p>
<p>委員</p>	<p>ちょっと、この重複しているあれの狙いはどこにあるんですか。いろいろ重複しているというけど、この重複していることがどうなのか。</p>
<p>事務局</p>	<p>2番目以降でですね、先ほど会長の方からご案内ございました後ほど、アンケートの関係のご議論をいただきたいというふうに思っているわけなんですけれども、その前提となりますいわゆる情報といたしまして、こういった重複する補助金という形で、皆様方に共通のイメージを持っていただいた上で、後ほどのアンケートの議論につなげていきたいというふうに思っていますので、よろしくをお願いします。</p>
<p>委員</p>	<p>よくまとめていただいて、何かよくわかるように思います。一つだけ、事務局というところですね、2ページなんですけども、下から2つ目の原爆被害者の会活動助成金、事務局が会長宅となっているんですね。これ事務局というのは、この事業の補助金の指導する指導担当課なんですな、事務局というのは。この原爆補助金というのは事務局がなくて、会長宅。この原爆補助金の適正な執行がどこが指導されておるのか。事務局というのは、この事業について、指導、適正な執行について指導されると思うんですけどね。これ申請書は事務局がつくるのではなくて、各団体がつくられるんですよ。申請書は。そうすると事務局の役割というのは、上の42番の遺族会は福祉施策課が指導されると。しかし、申請書は遺族がつくられるんだと思うんですけども、原爆の方は、会長宅という団体は自宅でもいいのかわかりませんが、ちょっとそこところがよく。ただ、後ろの方にも、それ個人の、3ページ、事務局各事業所とかですね、64番、各事業所の個人、組織が事務局となっているところとですね、団体が事務局となっているとこと、会長宅、個人いろいろあるんですけども、この辺のところの市の全体としての助成金に対する事務局の役割とか、事</p>

	<p>務局の指導というのはどんな考え方があるのか、ちょっとよくわからなかったんですけど。</p>
会長	<p>これはあれですよ、所管課を意味しているわけじゃないわけですよ。所管課じゃなくて、この団体の事務局をあずかっている場所という意味だと思いますわ。場所とか。</p>
委員	<p>この事業は指導されるんでしょ。指導されないの。担当課でしょ。</p>
委員	<p>市役所の中に事務局がある組織があります、それを書いとるだけなんですよ。</p>
会長	<p>だから、役所が事務局担っているところもあるということです。</p>
委員	<p>こちらの補助金一覧表だと担当課が書いてありますので、見比べるとわかるかと思います。</p>
委員	<p>今後の補助金出していく中でね、もらっている団体の自立ということが出てくると思うんですけども、事務局でバタバタになってしまいますと、いわゆる本来の団体を通して、行政目的を執行していくということが、非常にうまくいく場合もあるんですけども、過去の団体と行政がいろいろなことがうまくいかなかった例があるんですけども、そういうところ事務局のあり方というのは、補助金を今後見直していく中でも必要なと、このように思うもんですから、ただここに会長宅という、ほかの各事業所とかですね、個人もありますんで類似かもわかりませんが、ちょっとそこだけ補助金見直す場合、団体と行政、行政との関わり、指導の体制、単にそれが場所があるということだけなのか、もっと積極的に補助金を適正化するために指導していくということまで将来期待しているのかどうかということが気にかかるんですよ。</p>
委員	<p>すみません、これにかかわることで、これはここの項目を入れていかれたのは、原課さんなんですか。</p> <p>例えば補助金調書を見るとね、今、ご指摘のあった45番目は46ページになるわけですけども、担当課さんは人権推進課となっていて、それから交付団体の代表者が被害者の会ということになっていると、だから、それで言いますと、事務局が被害者の会の会長の宅でされているということは、その実際に会計などの事務をどうしているかというのがそのとおりでないだろうと。ただそうしますとですね、多分、事務局の中に、例えば、体育振興協会で、同じページの一番上ですね、体育協会さんの事務局をスポーツ課がされているという理解になるんですけど、そこちょっとまた違うような気がします。</p> <p>そして、担当課さんがあげていただくときに、ここが誤解があったのかなと思うんですけど、いかがでしょう。</p>

事務局	<p>表現上のちょっとした違いなんですけども、例えば体育協会の例でいいますと、それぞれの所属団体の方が、そのスポーツ課のところに集まって協議をなさっているというようなイメージで、独立した事務局ということで団体を持っているんじゃないくて、その打ち合わせ会をしましょうかといったときに、会議室に集まって調整するとか、具体的にその説明をするとかいうようなイメージでとらえていただいて、取りまとめを行うようなイメージ。ですから、所管の方も非常に書きにくい照会の中で入力しておりますので、ですから、先ほどの会長宅ということであれば、役員の皆様が会長のお住まいの方に行っていただいて、そこで補助金の申請とかの打ち合わせをされると、そんなイメージで回答されていると思われます。</p>
委員	<p>運営などの会議のとりまとめをするための集まる場というようなイメージでとらえた方がいい。</p>
事務局	<p>具体的にはそういうことになるかと思ひます。</p>
委員	<p>それとよう似た例で、青少年育成市民会議、事務局が中学校におひているところがある。これは場所をどこかに置かなあかんので、そこに設定している。</p>
委員	<p>その場所ということ。設定なり、会合がされる場所と言うことですね。</p>
委員	<p>ほかにも探したら会長宅という表現がありますね。 194、195が会長になってひますね。会長宅というのは、割といろいろな会で、任意の団体なども私が関係しとるんでもあるんですけども、会長宅を事務局とするという規約を適当につくって、適当にとひたらおこられるけども、必ずしも川西市婦人会とか、川西ユネスコ協会とか、194、195、これあたりは定例的な会合を会長宅で行われているかといひたら、そうじゃなくて、事務局というものがひないから、便宜的に会長のところに事務所を置くというような規約をつくって、その団体なりに事務局と考えてひると、そういう解釈の方が、リーズナブルだと思ひますね。</p>
委員	<p>例えば書類を市の方から送ってもらひ場合、どこに送ってもらひかという問題がある。とりあえず、育成会議の場合は中学校に受け取ってもらひおうと、そこから通知をもらったらという形にひています。そういうふうに使ひている場合があるひますので。</p>
会長	<p>その点で申しますと、これは事務局というひのは、組織機能ではなく場所いうことなんですね。そうすると、所管課の整理が抜けてひるわけですね。</p>
委員	<p>その事業は所管課なんですね。所管課の意味で事務局という、事務局は所</p>

	<p>管課の仕事をしている場合もありますよね。</p>
会長	<p>あるからね。それに誤解があったんですが、所管課に関して見てみると、これは全部は書いてないね。例えば、会長宅なんて書いてあるから、所管課わからへんから。原爆被爆者の会活動費助成、これは昔は福祉事務所やったりしてましたけどね。</p>
委員	<p>今は人権推進課の所管ですね。</p>
会長	<p>でも、所管課はなくなつてこの議論はできるわけやから、いいのはいいんですけどね。</p> <p>すみません、今さっき委員がご疑問に思われたことの一つは、役所の職員が団体の家来みたいになって、事務局機能の肩がわりをしているようなところがあるのではないだろうかというふうに見えると。</p>
委員	<p>かつてあるところにあつたんです。</p>
会長	<p>そういうふうに受けとめられるけど、それはそれでええのかという質問やからかもしれませんね。それに対する回答は、これは場所ですということやから、それはいいんです。</p>
委員	<p>わかりました。</p>
会長	<p>はい、ほか何かご意見、ご質問ございますか。</p> <p>よろしいでしょうか。</p> <p>それではですね、これが大体的見取り図と言いますか、これだけあるんだぞというのがわかったということです。</p> <p>役員の重複している団体も当然あるのはわかりますし、類似事業の実施補助金があるのもわかりますが、ちょっとややこしいところがありまして、事前にちょっと説明受けたところでは、コミュニティ組織活動補助金の部では、地元の方はよくご存じのようですが、コミュニティいうか、何か協議会ですか、これが結成された段階で切り替わってしまう補助金もあるようで、かなりの量が、類似事業実施補助金のところに含まれていると。ですので、コミュニティ組織活動補助金に切り替わった時点で、これらの補助金の幾つかがそれに振り替わってしまつて、消えてしまうというのものもあるようです。だからって、完全に整理されているというふうなものでもないようですが。</p> <p>それでは、次の議題に移らせていただいていいでしょうか。アンケートに入らせていただいていいでしょうか。</p> <p>では、事務局さんご作成のアンケート案についてご説明くださいますか。よろしくをお願いします。</p>

<p>事務局</p>	<p>それでは、アンケート調査の説明をさせていただきます。</p> <p>資料3の方をお出しいただきまして、川西市補助金等審議会アンケート調査についてということで説明をさせていただきます。</p> <p>今回アンケートをとる対象としましては、補助金の交付先の団体あてではどうかということで団体の代表者とさせていただきます。</p> <p>この案内文の中で3段落目、その中で、市が類似した事業に複数の部署から補助金を支出している現状が、補助金交付にかかる事務手続きの煩雑化や、活動されている団体の会計事務等を複雑にし、円滑な活動を阻害しているのではないかと考えております。そのため、より効果的・効率的な補助金制度が必要ではないかと考え、まずは皆様のご意見をお伺いすることといたしました。という形で文書を作成させていただいたんですが、これにつきましては、大体、補助金審議会からくるアンケート、イコール補助金の削減あるいは廃止というイメージを持たれないようにするためにこういう文書を書かせていただきました。</p> <p>この次に、締め切りをいつにするかということで、一応、7月18日金曜日までにポストに投函していただいております。</p> <p>続きまして、ホッチキスどめの方、川西市補助金等審議会アンケートですが、これが各団体の方から回答していただく用紙になります。まず、団体名を書いていただきまして、Q1から順番にお答えしていただくと。まず、団体の役員をされている方で、他団体でも役員をされている方がいるのか、いないのか。いる場合はQ2以降、おられない場合はQ8以降にお移りいただくと。おられる場合に、お一人が兼務している団体数で最も多いものは何団体あるのか。次に、兼務されている理由ということで、自ら望まれたのか、市に頼まれたのか他の団体から頼まれたのか、あるいはほかの理由があるのか。</p> <p>Q4兼務されている団体で市の補助金を受けておられる方ということで、受けておられる場合に、その次にいきます。</p> <p>その次にきたときに、各団体の会計はどういうふうに行われているのか。それぞれの団体に会計担当者がいて別会計なのか、会計担当者は同じであるが別会計か、会計担当者も会計も同じであるのか。</p> <p>その次に、それぞれの補助金の会計についてどのようにされているのか。補助金の対象となる事業と制度にあわせて区別しているのか、それぞれの補助金の対象となる事業を年に数回実施している場合に、補助制度の目的に合わせた区別ではなくて、機械的な区別に行っているのか。あるいは経費は按分しているのか。この場合、それぞれの補助金ごとにお答えいただくという形になりますので、先ほどの資料2に基づいて、代表的な補助金を明記させていただいております。</p> <p>Q7に移りまして、今後の補助金制度のあり方についてのお考えをお聞かせください。類似する事業（世代間交流事業など）について、複数の部署より補助金を支出しています。審議会では、これらを統合し、手続きの簡素化や対象事業を拡大するなどによって、補助金の利便性が向上するとともに、各団体における活動がより効果的なものになるのではないかと考えております。という</p>
------------	---

	<p>ことで、一応、審議会の立場というものをここで明らかにさせていただいております。今後の補助金のあり方についてのお考えということで、このままでよいという考えなのか、市の窓口を一本化してほしいのか、その理由は複数回答を可としております。それぞれの制度を見直すことによってより効果が上がると。補助金を統合することによってより効果があがるという形で項目を出ささせていただきました。これにつきましても、補助金ごとにお答えいただきたいということで、先ほどのように補助金を明記させていただいております。</p> <p>次に、今後の補助対象事業のあり方についてのお考えということで、このままでよいということで、理由としまして事業の実施目的が異なると、実施している団体が異なるなどの理由でこのままでよいのか、あるいは補助対象事業を一本化してほしいということで、その理由は何かということで、これにつきましては、各事業ごとにお答えいただきたいということで、回答欄は5ページで地域交流連携事業ということで、地域交流や連携を行う事業、障害者な高齢者の社会参加を含む、世代間交流事業につきましては、高齢者や青少年、子供のような世代間で交流する事業。地域・家庭環境対策事業は、家庭教育の充実・向上や社会・生活環境の整備を目指す事業等々ということで各事業をあげさせていただきます。</p> <p>7ページに移りまして、Q8としまして、他の団体から補助金を受けておられるのかどうかということで、市を通さずに国や県からの補助金を受けているケースもあろうかと思しますので、このことについてお伺いしていきたいということと。その補助金を受けることにあたってはどうかということ、ここで伺っております。</p> <p>Q10として、その他ご意見等もしていただいたらと。以上でございます。</p>
会長	<p>それでは、このアンケートの設問とか、様式に関するご意見等を賜りたいと存じますが、いかがでしょうか。</p>
委員	<p>ちょっとお伺いしたいんですが、一つは目的をお伺いしたいのとですね、もう一つは、Q5と6に入る場合なんですが、これは一つの団体さんなんですけれども、市の複数の場所から助成金を補助金を受けているという団体さんは、Q8にとんでしまうんですけど、それでいいんでしょうか。</p> <p>ほかの団体と兼務している人は、書くことになるんですが、ほかの団体もやっていますという人はQ5と6に入っていくんですけども、ほかの団体をやっている人はいませんというのは、全部Q8に飛んでしまうんですが、そもそも何をお調べになるアンケートなのか、もう少しご説明をいただきたいなと思うんですが。</p>
会長	<p>今後の補助制度のあり方についての意見聞いてもらえないということですね。Q8ということは。</p>
委員	<p>一つの団体さん、あるいはほかの役員や委員の方がですね、別のところでや</p>

事務局	<p>っているというのがですね、例えばすごくたくさんおられた場合、これはすごく書くのが大変になりますし、あとほかのところで役員をされているということを会長さんにご存じかどうか。これを書かれる方がご存じない場合もすごく大変なことになると思うんですけども。</p> <p>ただいまの質問の分で、概ね市内部で事前に照会をかけているということで、概ね役員の兼務が見られるところにアンケート調査をしようという趣旨です。後ほどこれは対象者のとこでちょっと議論していただくことになろうかと思うんですが、補助金そのものの、今回、非効率的な執行になっているのではないかというのが大前提でございます。ですから、下のQ6のところであえて餅つき大会という表現で使わせていただいているんですけども、私が以前所属していました地域の活動の中ではですね、秋から冬にかけての行事では、それぞれの違う団体が餅つき大会という形で実際には、今、人気があるというようなことを理由にですね、餅つき大会を連続してされるケースがございます。そうしますと、餅つき大会、限られた経費の中で人気がある事業となりますと、どうしてもそういったことで事業をうたれるケースがありまして、それは私自身が地域にいてるからわかることであって、それが市の当局側ではわからない。事務局というか所管課としてはわからない実態がございます。そうしたときに、実際にもらわれている団体、兼職されているところにターゲットを絞り込んで、もし照会した場合ですと、その地域に実情に合わせた本音の部分が出てくるのではないかというような形で考えております。すべての補助対象団体にアンケートをとるといふ形なのかどうするのかを、後ほどまた議論していただけたらと思っておりますので、確かに役員が全然重複してない団体、把握してない団体にはアンケート調査がいないという実情は出てまいります。</p>
委員	<p>重複している補助金なり、事業の内容を整理するときにはですね、例えば5つか6つの団体さんと兼務されている役員さんがおられる方とか、そういう方が複数おられる方というのは、相手先の団体でも同じように聞かれていると思うんですけども、それは統計的にどういう回答になるんでしょうか。</p>
会長	<p>団体に聞くのか、会長個人に聞くのかによって変わるということですね。</p>
委員	<p>多分、その兼務されている団体が、あそこの団体とここの団体の兼務されている人が多いという団体になると、その視点からの回答がわっと多くくることになるんじゃないかと思うんですけども、その母数が多くなるわけですよ。これ1対他のアンケートですから。</p>
委員	<p>今、委員が言っている戸惑いが私にもあったから最初の質疑でしたんですけどね、どうしてこういう質問をするんだろうかって、その意図が、僕は回答する立場に立っても、これ何で聞いとるんかなという感じがするわけですよ。だから、そこらの意図をちょっと教えてほしい。僕は今はやっておりませんが、</p>

	<p>会長をやったときには、青少年育成審議会の議長もやって、それから、トライアル委員会の委員長もやっていた、そのぐらいがそれを念頭において返事する。そうすると、Q3で、自ら望んだということでもない、市に頼まれたことでもない、団体に頼まれたこともない、要するに一つのルールがあって決まってきたわけで、それはその他に入りますか。</p> <p>それで、それを聞いて、どんなメリットがあるんだろうか、そこらへん戸惑いがあったんです。最初の質問は、ちょうど同じタイプの質問ですわ。そこらへんをちょっと説明しないと、また、文書でもちょっと問題がありますけどね。そこらどうなんだろう。ここで役員兼務しとったら何か悪さしよるとか、そういうことを感じとるためにやっておるのかなと思ったんです。どういうことなかなと。</p>
事務局	<p>実際に声として現存するのが、例えば、先ほどの案の方の説明で、地区のコミュニティ推進協議会と、それから、ジョイフルという中で、その傘下に納めている場合と、別枠で運営されているケース、各小中学校の方の地域で異なっています。青少年育成市民会議につきましては、中学校区に1単位ということになっておりまして、1つの中学校区に複数の小学校区であったり、1つの中学校区に1つの小学校区であったりするケースがございます。ですので、回答も変わってくると思うんですけども、例えばコミュニティ推進協議会の補助金の中に、先ほど言いましたジョイフルとか、そういったものを全部トータルで統合補助金として出した方がいいのか、ジョイフルの方の立場からすると、そうしてほしいという声なのか、そういったことの実際に行政側の方で横の連携がとれてない反省点も含めまして、実際、その地域の方々というのがどのような思いをされているのか、具体的には、その代表、補助を受けておられる代表の方に思いを書き寄せていただきたい。一方通行ではなくてですね、もし同じ方が会長さんなり、代表者であればですね、その部分というのは確かに同じ回答になってくると思うんですけども、その役員さんの方で会としての、例えば先ほど言いましたジョイフルで地域に小中学生を中心とした青少年会議をやることと、広く年齢に関係なく地域活動とされるコミュニティとなった場合に、それは各コミュニティともに自由に裁量で動かせるような補助体制がいいのか、それとも今のように各所管ごとの補助を受け取る形でいいのか、そういったところのご意見を賜りたいという部分が多い。</p>
委員	<p>いろいろ対応があると思うんですよ。ある地域で、例えばジョイフルの場合、コミュニティ、それはコミュニティで采配をふるわない、ジョイフル実行委員会というのをつくって、そこから学校へ渡す部分、講演会活動とか、音楽会のタイアップ、学校へ渡して、それから育成会議に出して、いろいろ仕分けして、実行委員会の方で処理してる。ほかのところはどうなんか、そこら把握してませんけどね、それは市の方がよく知っている。そういうやり方しているわけ。</p> <p>それと、ちょっとその設問1、ちょっと、すつきりとは入らないですね。その前にQ1の文章がちょっと文言としてはちょっとまづい。</p>

	<p>これは直し方があるけども、貴団体の役員や委員をされている方で、他の団体でも委員や役員をされている方はいますかというふうにするか。一番簡単なのは、貴団体の役員をされている方は、他の団体でも委員や役員されていますか、どっちかに訂正してほしい。このままではちょっと文章として通らないから。</p>
委員	これは審議会の名前で出すんですね。
会長	そうです。
委員	<p>先ほど餅つき大会の意味があるというふうにお聞きしたんですけども、こういうところではやっぱり代表的なものを出すんだと思うんですけども、そうすると社会福祉の向上につながるものとかですね、文化、スポーツ活動につながるような事業をあげた方が、僕、餅つき大会って昔ね、もち米を持ち集まって楽しく、わいわい、ガヤガヤしたイメージがどうしてもぬぐいきれなくて、ただ餅つき大会を通して世代間の交流とかね、地域の交流ということに今あるんだというお話し承ったんですけども、それはよくわかるんですけども、こういうところに出す場合はやっぱり福祉の向上につながる事業とか、文化、スポーツとか、福祉とか、何か餅つき、僕の個人的なことかどうかしらん、おばちゃんと一緒にもち米持ち集まって、お正月にワイワイガヤガヤ遊んだような、行政が助成するような何か、そんな思いを持っておったんで、餅つき大会という言葉にその意味を持たされたかと思うんですけども、ちょっとそこ違和感を感じましたのが一つです。</p> <p>2つ目の2ページです。市の窓口一本化してほしいということで、Aが担当課によって基準が異なるため、Bが複数の窓口書類を提出するが大変なためということで、これは審議会の名前で出すんですけども、担当課によって基準が異なるのであれば、担当課が基準を調整すればできるのであってですね、複数窓口で書類を提出するのが大変だったら、庁内LANとか、各課で情報共有化しようというような動きの中で、あまり委員会が市の事務を、こういうようにばしゃっと、それは現実はどうなんかも知りませんが、あまりにも、市役所が担当課で基準がばらばらやというのであれば、基準調整したらいいん違うんかという反論したいんですけども。窓口が大変やったら、情報化、庁内LAN走らせて資料を共有化すれば、それはそれとしてある程度、可能の数字だとはっきり思うんです。これをあえてこない取り上げなあかん、現実これが大きな課題になっとるんですか。</p> <p>やはり川西市の事務は、えらい市民に対してごっつい負担かけとるのかなというのは、上の方でね、Q7で、審議会ではこれは統合し、手続の簡素化云々という、書きながら、片方では書類をたくさん出させているとか、各課がばらばらで基準をつくっておるというようなイメージをね、何か審議会が示して、市民に対して向かって言うようなちょっとそこ違和感。現実には僕もわかりません、そこまで審議会の名前で出すということを前提として、別に対立するわけ</p>

	でもございませんので、若干そのところ。言葉ですけども気にかかった点でございます。餅つき大会はやっぱり必要ですか。
会長	事例としてあげるのにふさわしいかということですね。
委員	多少意味があるというとらえ方されたらそうだと思うんです。ただ、個人的に、昔遊びに、もち米を持ち集まってですね、おばちゃんがやったような感じがしてしょうがないんで、代表的な事例として、やっぱりこれでは福祉の活動とか、そういうのが、審議会としてあげるのがいいのかなと。個人的に思いますが。別に言葉にこだわるのもどうかと思いますけども。餅つき大会のこと言うて、何か非常に刺激与えて、活性化するという、市が活性化する意味やったらいいと思うんです。
委員	ある地域ではトライアルの特別事業としてあげています。あれはおかしいんか知らんけど。
委員	川西は餅つき大会が推進されとるんですか、アンケートでずばっと最初にくる項目として。
事務局	<p>これは我々内部で議論する中でですね、実際に現場では、あくまで目的は地域福祉であり、異世代の交流であるとか、さまざまな敬老の日の趣旨で、皆で人が集まろうじゃないかというようなさまざまな事業の中で催しを行うわけですが、例えば、現場で行われていることって、何が一番代表的だろう、わかりやすいんかなということ、議論している中で餅つき大会なんかをいろいろな目的を持って餅つき大会をやっている事象として、代表例として餅つき大会というのを書かせていただいたと。</p> <p>実際には餅つき大会をすることが目的ではない。餅つき大会という行為をへて、地域の方の交流が深まるとか、それから、三世代交流が成り立つとか、そういうような近所の方、単純に言うと、どの事業をとりましても、近隣の方々が終わったあと、1週間後に、まちであのときにお会いしましたねという会話が成り立てばいいというような、それが最終的には地域福祉であったり、地域の活性化ということにつながると思うんですけども、ただそのときに、何が一番わかりやすいんだろうかといったところで餅つき大会をというのを書かせていただいたというのが正直なところですよ。</p> <p>あと、補助金のあり方のところにつきましてはですね、実際にこれも一つの事業をしようとするために、複数のところに一括して、例えば今、これはこの流れで餅つき大会ということで説明を続けますと、もちつき大会をするということで、参画協働・相談課の方にするとところ、それから、ジョイフルフレンドクラブでそういった事例があるのかどうか分かりませんが、その補助対象窓口に同じような計画つくって、複数の窓口に出すということが、今現在起こっているんじゃないかと。それであれば窓口を一本にして、いろいろな事業、こん</p>

	<p>な事業を1年間かけてやるというような補助申請の形がとればいいんじゃないかなというのを前提にこういったこと。例えば基準を統一したらいいんじゃないかという市民の方のアンケート結果が出てくることも当然想定されますので、その場合については、そういった見直しの方が、こちらの方は必要かなと。ただ、補助制度を統合した方がいいとか、そういった今のままがいいとかいう回答を、そういうアンケートを入手したい、意見を聞きたいというふうな思いでございます。</p>
<p>委員</p>	<p>ちょっとすみません。アンケートのテクニク的なことの質問ばかり続いて申し訳ないんですけども、Qの6なんですけども、やっぱりちょっとわからないのは、一つはだれがこれを回答するかというところなんですけれども、会長さんが書くところと、会計担当者でないと書けないところとですね、しかも兼務している方が書くべきところというところが少し混在している感じがしまして、特にQ6のそれぞれの補助金の会計はどのようにされていますかというのは、これは兼務されている団体に出されている補助金ということなんですよね。このまま読むとそうなるんですね。兼務されている団体の補助金の会計はどのようにしてますかと。そうするとですね、Q5で1を答えた方にはですね、やっぱり余り意味のない質問ですよ。そもそも団体が別になっていて、団体に出されている補助金の会計はどうしていますかというのは、もう自分の団体の補助金の会計はどうしていますかというのはあると思うんですけども、複数の団体で補助金を受けていて、それぞれの会計をどのようにしていますかという質問というふうにしか読めないんですけども。さらにこの中身を読むとですね、同じ事業を複数の団体に出された補助金でやっているところはこれに沿った回答ができると思うんですけども。</p>
<p>委員</p>	<p>これ非常に苦勞されてつくられたんですよ。市民に出すアンケートですからね、庁内の資料として出すのは、非常に、ご苦勞されてね、恐らく流れをちょっと追っていかれたんだと思うんですよ。パソコンで流れを。これ市民の方に聞くんですから、もう少しシンプルにした方が、どうなんですか。何かテクニクがあって。</p>
<p>委員</p>	<p>どんな対象の方に、何をどういう回答を求められたいのかがちょっとわからないなと。先ほどその実は対象は助成金を出しているところの全部のアンケートではなくて、回答者も会長さんを想定するというふうにお話がありましたけれども、それでしたら本当に最初からそれを明記しないといけませんし、一部の限定された団体にとるアンケートになるわけですから、それで恐らく、一人はいろいろなところの団体に役員として参加されているということですね、そこで補助金を余り適切ではないブレンドミックスのような形で使っているとか、同じような事業をそこで展開しているとか、そういったことが問題意識だと思うので、それを今、委員もおっしゃられたように、それをシンプルに状況を伺うようなアンケートにされる方がいいかなと思う。いろいろ考えてこうい</p>

	<p>う形をされたと思うんですが。</p> <p>もう一つは、それで聞くんだとすると、全ての団体さんに対してですね、補助金の支出に応じるために無理して事業をつくっていないかという項目はちょっとどこかにいるなというふうに思ったんですね。だから、お金はないけれども、事業やらなきゃいけない、補助金もらっているからそれを報告しなきゃいけないし、だから手軽に餅つき大会をしようという選択肢がないわけじゃないはずなので、団体の間で、市の複数の窓口とつき合わなきゃいけないということの不便さを感じている団体さんが多いんじゃないのかということとですね。そのこともあって、補助金の利用が効率的ではないんじゃないかということの部分です、もうちょっとストレートに聞かれた方がいいんじゃないかなと思うんですが。</p>
<p>会長</p>	<p>ちょっとよろしい。僕も。</p> <p>Q5は一人の役員が複数の団体に所属してますねと、そのあなたのご存じの範囲で教えてくださいと。それぞれの団体に会計担当者がおりますよとか、私は例えば、Aの団体とBの団体と両方とも会長と副会長やってます。それと別の団体で会計は別々ですと、こういうことでは答えられますよね。ところが、もう一つできるのは、会長私一人で、Aの会長もやってます、Bの会長もやってます、それで私のところで全部会計預かってます。補助金2つ私とこの団体で、実は私が預かっているんです、てなケースについて答えようという感じするんよね、これ。でも、まったく別の所管団体で、自分が両方とも会長やったらこういうことは答えられるけど、片一方副会長とかさ、総務とかいうのをやっていた場合、ここまで答えられへんことありますよね。ましてQの6はね、これ自分が会計担当者でもないけども、よその団体の兼務してますといった場合、そのよその団体のことに対して、ここまで立ち入って答えるというのは、それ答える権限が自分にあるんだろうかという戸惑いを感じながらこれ書いてくれという話になるん違うかなと、このあたりどない仕分けします。言っている意味わかります。</p>
<p>委員</p>	<p>これ例えばですね、補助金の窓口において、補助金を受けている団体が困ると、不便だと、そういう声はあるんですか。</p> <p>それとも今の場合には役所の側から見て、役所の窓口にまたがっているから何とかしなければいけないという、今の説明であればそういうふうに受けとめるわけなんですけども、どっちなんですかね。要するに受け取る側から、そういう混乱とか、それが現場の会計が混乱しているわという枕書きありますけども、これ混乱しています。現場のスポーツ団体、その他団体、日本語の展開非常に難しいと思うけども、アンケートにかかわって皆さんずっと文書書いているわね、これ。毒にもならない文書書いているけれども、これはどういうふうにとりますかね、この文書自体がね。それで、要するに補助している現状は、補助金交付にかかる事務手続の煩雑化や、活動されている団体の会計事務等を複雑にして、円滑な活動を阻害しているのではないかと考えています。だから、</p>

煩雑化にしているという意識が向こうにもあるのかどうかですね。多分皆さんが一方的に決めつけているような感じもするし、それで結局、この調査、アンケートの狙いが何なのかということですね。私はやっぱりこういう世の中のご時勢だから補助金ちょっとでも減らしたいと、そのために類似団体を避けたい、兼務しているのは避けたいというのが、このアンケートの設問の狙いだと思うけれども、そこは先ほども質問出てましたけども、そこらはオブラートに包んだままで入ってきますよね、答える人がどんなスタンスで答えたらいいか、ちょっと私自身、考えますわ。ちょっと足踏みして、なかなかいい答えが出ないなという感じがする。

それから、当事者が、例えば名前だけの会長の人もおるし、名前だけの代表の人もおるし、実際に業務をきちっと把握していない場合ですね、それでその人が2つか3つの会にまとまっている場合は、適切なる答えがこのつもりやったらやっぱり出てこないだろうと。だから意識でもって、時代の流れの中で、役所で財政の中では、やっぱり抑制する方向に当然ながらきているんでしょから、だから適正な支出ということを中心に心掛けていくための整理をするなら整理をするで、そういう方針のもとに考える。それやったらもう削られるところは削られる、あるいは増えるところも出てくるかもしれないけども、ある目的、意図を持って、言葉を掲げなければですね、これ何のためのアンケートかと。逆にいったら何のための審議会なのか。自分自身もわからないところがあります。今私が言うたこと、だれかちょっと簡単でいいから、私の疑問に対する答えをちょっと、答えにならなくても結構ですから。ちょっと示してください。どんな立場で呼ばれてとるかも全然わからないですよ。今の状況で日本語だけ読んできて、ましてこのアンケートに応じる人がですね、これを見てどういうふうには僕はそういう立場で書いたらいいのかなと、ちょっと。三日悩んでもこれは答え出ません、よう書きません。オブラートに包まれたままの文章だから、一番最初のときに、会長の方からおっしゃった、いや別に減らなくてもいいんですよ、増えてもいいんですよという話があったけども、今のご時世からも補助金増やしてもいいですよというのは、そんなことはやっぱり流れとしてはやっぱりないでしょうし、適正な支出を図るべきという意味で、この審議会が招集されて、役所の方も文面をつくられているんじゃないかと、だからこれも枕詞からずうっといって、一つの結論が出れば結構ですけども。

会長

もう一遍、第1回目の趣旨に戻って考えてみますと、あのときこう言ってますよね。同種、同類補助金の整理を議論しなくちゃなりませんねという話やったんですね。この同種、同類の補助金の整理というのは、2つ内容に分かれますよね。理の当然として、一つはやっぱり整理をするとか、片一方を残して片一方をやめるということですよ。だから、統合とか、分類して、狭分類を広分類に戻して行って、そしてそれ一本化するということになりますから、とともに、そのお金の無駄とか、金額的な無駄もその際合わせてみようやないかということに当然なると思うんですね。それをするためには、当事者団体に対するアンケートが必要でしょうということでアンケート実施が必要だ

から、次回の審議会までに事務局でアンケート案を作成してくださるということで今日出していただいたわけです。

ですが、こんだけご苦勞なさってくださったんですから、苦勞し過ぎたかなというのは、反対に役員さんのお立場、あるいは気持ちに則して答えてもらう形になってますから、客観調査というのにはちょっと難しいところが出てきて、意向調査になっちゃったんですね。例えば役員が答えるわけでしょ、会長とか、副会長とか、その方々が答えるものですから、項目として一本化もしくは廃止してもよいという設問の選択肢は絶対入れられへんねんね。そうするとこのままの補助金の答え方でいくと、一本化はあり得ても廃止はない、あるいは削減はないという印象になると思う。そのあたりからいくと、どうも行政はおれらにむしろいいようにしてくれるん違うかと、もうちょっとサービスよくしてくれるん違うかと、申請する手間隙省いてくれるように努力してくれるんやなど思うように書いてあるんですが、その期待を裏切ったら、どんな恐ろしい結果になるんやろうという不安を全員が感じたということではないでしょうか。そのような設問になっとらんかということと。

それから、回答者の立場から言うと、自分が書ける範囲に限界があるのに、よその団体のことまで代表者でもないものが書け、あるいは書いてもよいという非常にあいまいなところが出てしまう。これはどうしたらいいのかという問題ですよ。

それからもう一つは、それをなぜ調べるのか、役員が重複していることが悪いことなのか、よいことなのか、そこのところを調べる趣旨は何のなかということをもう少し議論せねばならんだろうと。だから、事業内容が一緒のやつに、さまざまな方から補助金出ているのは、これチェックをかけるのは当然やと、みんなこれコンセンサスあると思うんですよ。役員重複に関してはどうでしょうか、何かこれ書けるということの意味は、特定階層に仕事が偏るとということも何とかせなあかんということなるんでしょうね。

委員

一番問題だと思われているのは、複数の同じような方で構成されている団体さんが、同じような事業をされているということがすごく問題だというふうにお考え。

同種、同類の補助金の整備というようにしてしまうと、実は同じ同種の今の申し上げた問題は、同種の活動を似たような地域で、同じような方がされているという状況になって、そこを同種、同類の補助金というのは、団体がある一つの団体さんが、健康福祉関係でもやっているし、青少年教育関係でもやっているしという補助金。それでいうと、ちょっと切りわけが難しいのかなという。

委員

役所が役員が兼務したらおかしいという決めつけていいのかどうかということです。まさに役員は地域の人たちがまさにルールの中でやっていると思うんです。ただ、悪い意味、ワンマン者がおって、それはいかんでしょうが、そういうことはないということに前提にすれば、民主主義的に役員になっているわけですから、それはその地域で、人望があるんであって、そいつはけしからん、

	<p>その方の行為はけしからんという、けしからん場合もあるんかもわかりませんが、こういう形で決めつけた形ですずっと引っ張っていくのは、今、委員おっしゃったように、ちょっと、さっき会長のお話もありましたけども、私も市民代表として委員になってますから、気にしますね。</p>
委員	<p>同種、同類の補助金の整理と、同種団体の整理がちょっと混ざってしまっている。そこは別に目的の中、表書きにされている目的の中では、事務手続、会計処理がそのために煩雑化になっていることを確認したいという、客観調査で言うのだとすれば、その団体が同種、同類の補助金をもらっているか、その団体に加わっている人たちが同じような団体に同じように兼務しているか、事務手続、会計処理について、そういった一本化されてないことによる煩雑性や、複雑さということを感じているかどうかということも恐らく意向調査ではなくて、客観調査だとすれば、そののところはもともとのターゲットであったと。それに対してやはりそれについては本音のところも伺いたいので、意向調査の部分も少し入れたいというお気持ちがあったんだと思いますので、そうするとやっぱり物すごく大変なご苦勞をされてアンケートをつくられたんだなということとは重々わるんですけれども。</p> <p>同種、同類の補助金の整理というところで、同種団体、重複団体の存在の有無というところでいえば、Q2からQ5あたりは本当に必須の部分で、同種、同類の補助金の整理というところでいえば、貴団体の中で、同じような趣旨で複数の補助金を得てますかと。受けている補助金をずっと出していただいて、チェックマークをつけていただくような、今はされているようなものになるんでしょうが。そういうことから、同種団体とか、そのほかにも要するに同じことをやっていますという答えを出すにはどうすればいいかと。</p>
委員	<p>この3番でも、兼務されて、自ら望んだという、市に頼まれたからという、市が頼んどるかよくわからないんですけどね、他の団体、要するにその団体の人たちが選んだということはないんですね。まず、市に頼まれたから、市が頼んどるんですか、よくわからないんですけども。その辺、他の団体に頼まれたから。おかしいですね。</p>
会長	<p>それはだから兼務が多分多いだろうと。 問題はなぜ生じたのだろう、と言うことが知りたいということでしょうね。</p>
事務局	<p>ちょっと十分な説明できるかどうかわからないんですが、きょうお配りしている資料の資料2で、イメージを説明させていただきたいと思うんですけど。例えば世代間交流事業というのが、5つの補助金で地元の方に交付されていることになります。この中で先ほど委員の方からもありましたが、青少年育成市民会議につきましては、中学校区単位、子ども会につきましては、市内の7つの小学校区のみ支給です。ジョイフルについては、市内の小学校16校区すべてに出ております。コミュニティ組織活動補助金につきましては、これも市</p>

	<p>内の小学校区単位で、今一つの小学校がまだコミュニティがございませんので13、それから、福祉デザインひろばづくり事業補助金につきましても13ということで、小学校区単位で地元の方に補助金が交付されている実態がございます。</p> <p>その活動母体として、川西市としては、コミュニティという組織を結成しておりますので、PTAであるとか、子ども会であるとか、自治会を傘下をいれた組織が現実に小学校区単位でほぼ市内に設置されている状況があり、そのコミュニティ、先ほど事務局の説明でも、コミュニティ組織活動補助金をキーに説明させていただいたんですが、そのコミュニティの活動補助金の中で、各団体区分の中でですね、その内数として処理されているケース、外で処理されているケース、さまざまございますので、そのあたりの実態が、まだ現実に、所管課の方でも把握しきれてないというのが現状でございます。例えば、先ほど餅つき大会という言葉も使いましたが、それが具体的にプール開放という形で行われたり、さまざまな形で事業をされているんですけども、その煩雑性とか、市に対してどういう思いでおられるのかというのが、残念ながら執行している市の所管同士での横の連携が今の段階ではまだ不十分であること。それから、それぞれの経費では、きちりした報告書は出てきているという実態もございますので、確かに確実な把握ということは不十分ではないかということで、今回、先ほどから指摘を受けています、若干わかりにくいアンケートにはなっておりますが、そのあたりのところを、実態を聞いてみたいということです。</p>
<p>委員</p>	<p>これ例えば、Q1で、先ほどどなたかの指摘がございましたね。これやっぱりこのとおりの文章でやったらまずいですから、他の団体でも委員や役員をされている方はいますかとか、そういうふうにしないと、されていますかとか、あるいはされている方でという文章の展開はおかしいですね。これ基本的に。それで、ここで貴団体の役員や委員をされている方で、役員とか委員という言葉出ますよね。組織とか協会とか、いろいろな組織や、文化会だったり、スポーツだったり、交付団体がありますけども、委員とか、役員とかどれぐらいの方を想定しとるんですかね。これはまず一つこちら、例えば会計部長とか、総務部長とか、福祉総務部長とか、その上に会長がおって、副会長がおって、理事とか、いろいろおりますよね。団体でね。この書き方でいくと、どこまで役員とか、委員とかいう感じで、ここ書かれた段階でも想定されていらしたんですか。役員の定義がない</p>
<p>事務局</p>	<p>想定しておりますのは、この資料に書いている団体がほぼ想定でございますので、民間企業等がないということ想定しておりますので、基本的には会長、副会長の役職の方、それから理事の方、会計とか、そういった方を想定しております。</p>
<p>委員</p>	<p>それは相手方にわかるようにちょっと説明加えないといけないですね。</p>

<p>会長</p>	<p>例えばね、Q 1 は会長が答えてくださいとかね、Q 2 は最も多い役職を兼務している人が答えてくださいとか、特定しないと、これは答えられないわな。例えば会長さんがうちの副会長は7つぐらいやってまんねん、知っている会長さんおるかもしれんし、反対にですね、わしは実は10個ぐらいやっているんやけど、こんな下手に書いたらまずいからやめとこと、自制するかもしれませぬよね。だからQ 1 とQ 2 が一体だれが答えるんか、これ自体がなんか、回答者の統一性というのかな、担保できない実数。他人さんのこと答えるんやったらQ 3 は答えられない。うちの副会長7つぐらいやってますけど、自分で喜んでやってはるの違う。こんなこと言ったらおこられるかもしれん。本人に聞いてみて、いや何言うてるんやと、市に頼まれとるんや。だから物すごいふらついているでしょ、回答者の主体性というか、誰が答えるの、これ。ずうっと1番から順番に答えるべき人がね、ゆれるんですよ。これはおれ一人では答えられへんということですね。最後の他の団体と兼務している場合には、他の団体の会計まで答えいうているわけやから、これは本当に頭スパークしている感じせえへんかな。</p> <p>ちょっと資料2の説明もう一遍していただいて、それに合わせて議論しません。でないと、この設問の建設的な提案になってこないかなと思うんです。</p> <p>つまり、たくさん補助金はあるけれども、小さい補助金をもらっているとこまでいちいちアンケートするのは大変なことになると、よう回答しはれへん人もあるやろうと。なので、この類似している事業の重なるの部分でターゲットあてて、わざと聞きたいということやね。そのわざと聞いていることも含めて、向こうに了解させないけませんね。聞いたらいかんわね。</p> <p>これは非常に市内で主立った有力な団体を中心にお聞きしておって、しかもそれらの団体さんは、幾つかの事業を一団体で複数の事業をしておられるケースもあり、補助金も複数受けておられるというふうに想定しております。今回はそれらの団体さんを中心にお聞きしておりますと、はっきり断った方がいいんかもしれんね。その上でお聞きしますと。回答できる方は、役員、会長一人でお答えいただくか、あるいは役員会で相談してお答えいただくかということになるん違いますか、これ。</p>
<p>委員</p>	<p>事業の実施、運営の非常に近い団体もありますか。あるとしたらお書きくださいというような質問ではいけないのでしょうか。</p> <p>そしたら、その団体がとっている補助金、それで団体名を出していただいて、ご自身のところがつくっている早見表でですね、このあたりから補助金もらってますとチェックマークをつけてもらって、相手の団体の補助金のチェックマークをつけてもらって、それを照合するとですね、どれぐらい補助金が重なっているかがみえるかなと思いますが。</p> <p>その団体名で、その会長や、事業の共同実施など極めて近い団体はありますかと。</p> <p>主要な役員を兼務しておられて、事業の類似した事業を実施されておられるような関係の深い団体もありますか。5つでも6つでも書いていただいて、そ</p>

	<p>れとは別に、このリストを出していただいて、この図も大変きれいに重なりが出ていて、これらの事業で助成金を得ていますかというところをチェックしていただいて、そうすると関連しているところも同じようにチェックしていただいて、それをあわせるとその事業がだれが重なっているかというのはわかるかな。</p>
会長	<p>これに基づいてやっていますということが一般市民にもわかってもらったら一番ですけどね。だから、すべての団体というわけじゃない、非常に主立った団体なんだというやり方なんです、これ。</p> <p>そこからくる回答結果から何が得られるかな。</p>
委員	<p>重なっている団体は見えます。重なっている団体は、個別的に見るのでこの団体とこの団体は非常に近くて、同類の補助金をもらっているということはわかる</p>
委員	<p>となると、重なっているとこ切ってみてという。</p>
委員	<p>そういう想像はされるだろうなと思います。</p>
会長	<p>向こうはその想像するでしょうね。</p>
委員	<p>ちょっと書くのは恐がられるかなというところです。</p>
委員	<p>自分の団体と近い団体をそこに答えさせるんですか。</p>
会長	<p>でしょうね。</p>
委員	<p>それと、補助金を一つの団体がいくつかの課からもらっていた、それは市役所でわかるのでは。団体に聞かなくても。行き先はわかっているわけやから。</p>
委員	<p>助成金を交付しとる団体の役員もね、なんぼ助成しとるか、それを市役所、自分とこの課が補助金として出すんだから、それわかるとの違うかなと。わかっていることをあえて何ですの。</p>
委員	<p>それを市が知らないというのは。</p>
委員	<p>あえて形の上でもう1回アンケートとか、市役所が認識するためにするのか。あるいは実態的に補助金を交付しとる団体についてはですね、役員の構成か何かで、当然、なんぼ助成しとるってのもわかるとのにや、あえて何で聞くんやろうと。そういうあれ、ちょっと私も思っているんですよね。気持ちの中でね。何でなのか。</p>

委員	補助金つくったのは市ですからね。この事業はどういう目的で、どういう団体でという、当然、イメージ膨らましてきますよね。
委員	精査してるはずですよ。
委員	だから、年度は違うと思いますけど、当然、バラバラでええかげんな形で補助金つくってないですよ、どこでも。その実態は変わっていくかも知れませんが、担当課ではそこを押さえているはず。
委員	いろいろな活動報告してますよ。当然ながら。補助金を得るために。
委員	当てはめていきますよね。
委員	1年、1年活動報告していますよ。新聞の会報なんか届けたりしてますよ。どこでも。役所から税金もらったり。だまってできませんよ、やっぱり申請しますから。
委員	代表者の名前もみんな書いていきますよ。
委員	事業にとって重要だというふうな位置付けしている。
委員	だから、役所の窓口が違って、役所でトータルで見たら、どこが何ぼ出しておるとか、当然わかりますよ。何でもう1回聞くんですよ。
委員	どの事業でも交流がキーワードなんですね。そしたら、これだけ交流全体のキーワードですから、切り口が違うということなんでしょうけど、交流、連携。
委員	役員名簿は、この諸表ぐらいしか見てないんですね。会長さん、この重複はわかると思うんですけど、それ以外のどこと関係が近いかというのは、会長さんが同じでないとわからないかなと。だから、補助金に関してはおっしゃったとおりです。その会の中で、優先順位が高いのであればと、あとは国からもらっているとか。でもこれ帳票にあるんですよ。
委員	本音のところを語らっていただきたいというのは、どういう回答を本音としてご想像されているんですか。もう団体を整理したいということですか。
事務局	それでは、この資料の4ページ、先ほど5つ括りいたしましたけど、青少年育成市民化会議というのは中学校区単位、子ども会連絡協議会については、市内で限定された小学校しかありませんので、右の3つ、ジョイフルフレンドと、コミュニティ活動補助金と福祉デザインひろばづくり事業補助金でいきます

	<p>と、実際、生の声で聞いたことが一つあるのは、地域によってコミュニティというのは、地域特性であるんじゃないかということで、例えばジョイフルフレッドに力を入れたいんだけど、福祉の地域活動に力を入れたんだけどということで、例えば例示ですけども、これが50万ずつ3つ出ていて、合計150万出ていたとします。今の制度でいきますと50万で年間の事業をそれぞれ組まないといけない、それぞれ単独で小学校区でジョイフルフレンドで50万、コミュニティ組織活動補助で50万、福祉デザインひろばづくり事業補助金で50万、そしたらこれを150万、本音はこれを120万ぐらいにとは思いますが、この3つを統合するとですね、その年度の力点を置きたいところであるとかが反映できる。今は枠を決められた補助金があるということで、それを使いにくい。ただ、2年に1回大きな事業をやりたいというふうに、今年は福祉に力を入れるから、150万なりの枠の中で大きな事業をしたいというのは、これは実際に聞いたことがあります。ですから、先ほど餅つきで言ったように、どこも小さい事業費で何回か数をこなさないといけないということがあって表面に出てくる地域活動が餅つき大会になっていたり、プール開放になっていたりということが出てきているというのは、これは私自身がコミュニティの役員しているときに、現実には議論があったところです。それと合わせて、ジョイフルフレンドクラブについては、今、青少年支援課というところが所管しております、コミュニティ組織活動補助金というのは参画協働・相談課、福祉のデザインひろばづくり事業補助金については、福祉政策課が所管で、社会福祉協議会等と連携してやっているということで、この窓口が違うがためにですね、補助金が減らされるかもしれないということで、生の声は実態、その職場の方にはなかなか通じるものがないということで、ここでは審議会からのアンケート調査という形をとりまして、地域では実際にどんな悩みや要望があるのかというのを把握したい、というような思い。ちょっと誤った表現使っているところあるかもしれませんが、概ねこの3つにだけ限定して言いますと、地域に同じようなお金が交付されていて、実際に使う側の方では、がんじがらめに、それぞれの所管の方から目安という数字が示されているとなりますと、一定、効率的な執行というのができないのではないかなということで、今回お示ししている内容でございます。</p>
<p>委員</p>	<p>そこでそうしますとですね、この3つの補助金を受けている団体は、1つとは限らないんですね。</p> <p>そうしますとですね、このアンケートだと、その問題状況がどうやって出てくるのかなという感じなんですけども。</p> <p>それは多分、ここにこう書いてもらおうと、そういう声がひろえるというようなことはどこですか。</p>
<p>会長</p>	<p>今のおっしゃっておられたことのね、要するにこのアンケートやることのその心はということでしょうね。その心を聞きたいと。狙いは何なの、本音は何なの、どういうことを政策的な裏づけとしてほしいからこういう設問するのと、</p>

	<p>その辺がぶれているから非常に向こう、答える方も不安を感じるだろうし、憶測、あるいは腹の探り合いみたいなことにはなってはいけないと、スコーンとその答えで出てくるように、設定したらどうですかとこういうことやと思うんですよ。</p>
委員	<p>おっしゃられている問題については、そのとおりだと思います。それはすごくあり得る行為だと思います。</p>
会長	<p>今のご答弁を聞いてますと、減額したり、あるいは廃止したりなんてする意向というのは実はないと、私は聞かれました。それはそのことじゃなくて、むしろばらけていることによる問題、もっと事務的に一本化仕上げることによって、利便性を高める、向こうの活用の効果性を上げてあげるという趣旨に聞こえたから、ならばその趣旨に沿ったアンケートで、私はすっきり出してしまった方がええと思うんですね。役員の重複というのは、そのことに関しては、むしろ余りどうでもええこと違うかなと思うんですね。役員の重複というよりも、どうやろか。そこから攻めるべきやろか。</p>
委員	<p>それを合わせてシングルポット、一つのものにしたら、例えば会計報告とかもすごく煩雑にならなくて済むし、例えば、皆があらゆる3つのお金を使って皆が餅つき大会をしなくても済むしというお話なんですよ。だから、それを出すためには、やっぱりこの補助金が3つ、地域の中に3つの種類のタイプの補助金がばらばらに少額ずつ落ちていて困るわという声をひろえる。それを聞いているんですよということを出していてもいい。</p>
委員	<p>3区分もしとったら、使途が困るから3区分を1区分にしたら、使途も広がって、非常に使い勝手がいいと、そのために金額はこの3つに関しては減らさないという。同じ150万なら150万でいきたいという、このように私は理解をするんだけど、さっき会長もおっしゃったけども、大事なポイントだと思うけども、基本的には役所の考え方としてはですね、3つを1つにするということは例示でわかりました。金額を削減しない、減額しないという、私は流れとしてはするであろうと思っているんだけど、今、会長は減額をしないということですねというような念押ししてやったけども、それについてはちょっとはっきりとした、ちょっとアンサーがないんだと、どういうふうに考えたらいいんでしょう。</p>
事務局	<p>できればしたいんです。</p>
委員	<p>できればしたい。そこを聞いておったらすっきりするわ、この問題は。余り大義名分だけの事務処理が煩雑だから、窓口一本化したいということだけのきれいごとだったらですね、話が全然目的と違うところで、いい子ぶった話だけになっているから、実際は今の世の中の流れ方は、言葉でいったら非常</p>

	<p>に適切な市を目指していきたいというのが役所の本音やと思うから、やっぱりそれでなかったらですね、3つの口座を一つにします、それだけの話、やっぱり違うだろうというのがあって、だからそれ大きな流れというのは、さっきの中で、役所の中の考えが理解できないと、こちらもどういうように、審議会というのは審議会の我々ですから、審議会の名前で、私は少なくともこと違うような文字になったりしたら、ちょっと余り私自身は好ましくないなと思うから。やっぱり本音のところをやっぱりきちっと話しておかないとですね、いけないと思っています。</p>
<p>事務局</p>	<p>我々の方、今回、審議会という性格でございますよね。最終的には会長名で答申を出していただいて、私どもは、それを最大限に尊重させていただいて、補助金をどうするか、具体的には、削減するのか、現状維持なのか、判断させてもらうわけですが、そこで我々迷いましたのが、審議会として、もう委員おっしゃっていただいたように、減額なんだと、統合して減額なんだというふうなことを前提とした文言でやるのがいいのか、それはもう行政側の執行側の判断ということで、審議会としては、やっぱり物の考え方としてどうなんだという考え方なのか、そこは少し審議会としてご見解いただけたらありがたいなと。</p>
<p>委員</p>	<p>審議会としても、どういう文言で結論出すかと難しいとこですね。だから、やっぱりより相応しい、より適切な、こうあるべきでしょうぐらいのことしか結論的に決められへんの違う。</p>
<p>事務局</p>	<p>アンケート依頼の文章として、余りその皮をむいた表現というのはいかがかなというのは事務局の現段階での見解なんです。</p>
<p>会長</p>	<p>だから、ここも抽象的見解で臨むでしょう、答申としてはね。抽象的見解を皆さんがどうやって解釈して、議会にかけるとかね、非常に難しい問題が最後までついてきますとなっちゃうんですよ。</p>
<p>委員</p>	<p>ただ、トータルとしての適正化を考えなければいけないということはやっぱり同じ文章だと思えます。でも実際に地域で何かをするときに、事業費の10万円は混ぜちゃいけないよと言われて3つもらうよりは、25万円まとまってもらった方がまだ使えるなというのは、それはあるかなと思うんですよね。</p> <p>そういう意味では、例えばQ7の(1)の4が実は本丸なのかなみたいなことを今、どういうふうに書いていただいたらいいんだろうと思いついて見ているところなんですけども。行政の縦割り構造が補助金自体を使いにくくしているけど、市にもらっている関係があるから何か事業やって使わなきゃいけないみたいなところを、もう少し使いやすくするということと、でも、そこで簡単に削るなよと我々は一言言うのか、いややっぱり削られてしょうがないんですよというスタンスでいくのかは、この後もう少し我々の中で話さないとなんていうんですかね、この委員会じゃあコストパフォーマンス的によかったのかど</p>

うかの話になってしまうので、そこはやっぱりもう少し議論をしないといけないというふうには思うんですけども。しかし、今の縦割りですとか、こういった複合しているものを整理することで、もうちょっと使いやすくなって、もうちょっと無駄な支出が抑えられる関係ができるんじゃないのというのはいり得るかな。ある部分に関しては、特にお話を聞いていると、やっぱり具体的な問題がすぐに頭にあって、ジョフルフレンドクラブとコミュニティ組織活動補助金と、福祉デザインひろばというのが重なっているから、一緒にしたいんだなというのが見えてくると、でもそうするとこの中でもですね、確かに似たようなやつが同じのをやっていた、似たような事業をやっているのは問題だよ、だから、トータルにすればいいし、トータルにした中で、重なっている部分は少し整理できるはずだよ、だから君らは青少年とか、参画とか、福祉とかの所管課は、自分のところの補助金だけ抱え込まないで、どこかにあげちゃいなさいということは行政に言うことはできるかなと。

ただそうすると、受けての団体の方か、あなた方どっちかにしか一つの同じような団体だから、一つの団体しか受け皿にならないよというふうに我々がやっぱり言う、発言なのか、市民の側も、受け口一本化しなさいよと、青少年だからこっちに参画だからこっちという出しかたはもうしないよということも言わなきゃいけないのかなという、そこをじゃあ市民に向かってどういう顔を見せるかというのが。

委員

川西市がですね、少なくとも私の解釈で、審議会に期待しているのはですね、そこに精神論、抽象論を期待しとるわけですね。だから、橋下改革のあれだって、プロジェクトチームみたいにですね、これをやればいいのか、何とかいうわけじゃなくて、ある方向性、私にしたらどっちでもとれるような抽象的な言葉で我々が要するに補助金を上積みとか選択肢の中の一つとして、100分の1ぐらいあってもおかしくはないし、減らすのか、上げるのか、そのままにするのかというようなことを結論は出さずに審議して、出したらここはややこしいから、だから、私流に解釈すると、どっちでもとれるというか、精神的なところを役所の方としては、委員会に期待をして、その委員会の答申を持ってですね、大きな流れと云ったら、削減の方にいこうとしているのかなというふうな理解を私は個人的に勝手にしております。

これから何回か会合しながらあれですけども、まとめていくんでしょうけども。

委員

100%助成ではないんですよ、団体も団体で自主性があるんですね。事業の場合、分散と集中とあるわけですよ。今の場合、分散をやめて集中して行って、最終的には補助金を減らしていきましようというふうなお話に乗ったんですけども、ただ団体がそれで自主性を持っている限りですね、分散をすべて否定しちゃうという、助成金を通して誘導していくということはいくぶんわかるんですけども、そういうところ、議論はあるんですね。ですから、あるところで、分散が効率的なのか、集中が効率的なのか、実験やったんですけども、時には

集中してやった場合に効率的なことがあったし、団体の自主性を尊重して、分散型でやった方が非常に効果あがっているのは事業報告も出とるんですけど。ですから、我々は分散より集中型の答申の中で、それを受けて、市の方が大きな目から削られるんですか、そういう方向になるんですか。

会長

これは第2期審議会と理解してもいいと僕は思っているんですね。平成15年答申あるでしょ、これ。これが言うたら、前任者の仕事ですよ。

これを踏まえて我々やるわけなんですけど、それを整理してくれているのが前回の6月9日配布の資料4ですよ。川西市の補助金の現状についてというやつです。これを見ますと、もうAからE区分まであるんですけど、Aは法律で決められてどうしようもないやつ、Bは扶助的なもので国、県の財政支援を受けて連動していくやつ。これも優先順位から外すと。そうするとCは建設投資なんかの補助金、臨時補助で、これは関係ないと、となるとD、E区分ですよ、この中の特にDについて調べていくと、結果的には、かなり減らすことできたんですけども、今のところはですね、補助期間原則5年に切り換えていって、事業補助に大体切り換えていくという方向は決めたということですね。その見直し期限がもう終わりつつあると15年やから。なので今、第2ラウンドに入ってきているなど、こういう理解ですよ。その中で、基本方針としては、我々が前回確認したのが、類似補助金の統合整理せなあかんの違うのということとか、これ再確認しているんですよ。それから、減免優先利用と補助金の整理をせないかん。補助金の評価を得て、その公表方法を考える、補助金公募制度の創設もちょっと言及しておこうと、これは市民参加条例とセットなので最後でいいとこういうことやったんで、その第1番目の同種、同類補助金の整理の仕事としてこのアンケートがきているんやと、こう理解したらええと。どうもこのアンケートの設問の中身がだれが答えるのんと、それから、どこまで答えられる権限いうたらおかしいですけど、民間団体に、筋合いといふかな、ちょっとぶれが大きいので、今こっだけ議論出たわけですよ。

でありますけど、本音のそこをはっきり言わはりましたから、こういうことでしょね。同種、同類のものを統合していって、うまく使ってくださいね、統合できるところはしてあげますよ、条件整ったらしてあげますよ、でも統合したやつはAプラスBプラスCの合計やなくて、ちょっと減らしまっせというのが、いいん違いますの。

使いやすくなった分ちょっと減らしますよと。だからこの際、はっきり統合補助金とか、いわゆる包括補助金とかいう言葉、もう使ったらどうですか。政策的に。交付金いうたらまずいはず。交付金言うたらあれですね、渡し放しになるから。まだ補助金ですよ、段階は。報告義務のある。だから、包括、あるいは統合補助金への展望を開くためのアンケートと考えたらどうでしょう。ならば皆さん納得されると思います。それを通じてコストを下げていく、向こうはパフォーマンスを上げていく、使う方は。だから団体側にしてみたら、使い勝手がよくなったと喜んでもらうことが大事。こちら側にしてみたら、5%でもコストは下げられたというのが大事なんで。そういうところを狙いたい。そ

	<p>の対象となる補助金グループがこれなんだよということは資料2ですよ。</p> <p>そういう説明をすればわかることですよ、これ、きっと。これをモデルケースとして突破口を開いていきたいということになるんでしょうか。最もでかいやつですよ、これグループとしては。</p> <p>それですよ、これは私が個人的に言っていることで、全体の意向でも何でもありませんが、せつかく川西市はコミュニティ推進協議会などお持ちじゃないですか。じゃあこの例えば統合補助金、包括補助金の受け手基盤としては、コミュニティ推進協議会のような校区単位の総合型の住民自治協議会システムに近づいているところこそ、この統合型補助金を申請して、その受け皿母体になれることが望ましいというふうに政策誘導すべきではないのだろうかという疑問を感じるんですが、そこまでいくにはちと早い。</p>
委員	<p>むしろそういう時期じゃないですかね。</p>
会長	<p>一番筋の通った団体になりませんか。だから、逆にコミュニティ推進協議会を条例設置にしたらどうですか。過渡的な要綱設置じゃなくて、そうすると筋通りますよ、これ。包括補助金にしてもね。だけど、暫定措置として、コミュニティ推進協議会にいたらないでも、包括補助金を受け皿とする団体は、それなりのコミュニティ推進協議会の前段階みたいな統合体をつくってくださいみたいな、そういう呼び水とってもいいん違います。</p>
事務局	<p>まあ、全小学校区にまだコミュニティ推進協議会が設置されていないというふうなことがあります、やっぱり当然のことですが、コミュニティの組織化されているところにも、先ほどおっしゃった条例化に対応できる団体とそうでない団体が散見される。折衷案になりますけども、おっしゃっていただいたように、統合して使い勝手がいいという形、専門的に行政側、受入れ側としての組織の有り様についても提示をする必要があると、このあたりが現段階で審議会から出していただける限界かと思います。</p>
委員	<p>私市民代表ということなんで、6月15日、我々の地域でクリーンキャンペーンがありまして、公園に行ったんです、私も。そこでいろいろ聞いたんですよ。掃除しながらのことやから、補助金削られたらどう思うというような話ざっくばらんにしたんです。そうしたら51人中ですね、21人、4割の方が困ると、ただ3割5分がもうこの時期やから仕方ないかと、3割5分ですわ。それで後の2割5分は、まだ関心ないけども、やっぱりそういう方向にあるのかなと、だから2割5分の方は削ってもやむを得ないと言う、草刈りながら話したからあまりそこはずばり言いませんけども、公園を回りながら、ざっくばらんに市も苦しいんやから、コミュニティ事業ですからね、補助金もうとるけど、こういうのどう思ういうていったら、約4割近くは51人中20人ほどが困るなという話と、17人、3割5分ですよ、もうしゃあないね、あとの2割5分は関心ないけども、やっぱりそういう時代になっていくのかなというようにこ</p>

	<p>とを言いますと、6割近い方が伺ったらそういう方向に流れを感じてはるような、掃除しながらの話ということで割り引いていただきたいんですが、そんな感じ持ったんですよ。今日ここに来るためにですね、だから、そういうびくびくする時期じゃないと、あえて打ち出すことが、そういうむしろいいときにはあるんでしょうけども、一歩足を踏み出す時期にきつつあるのかなと。</p> <p>会長</p> <p>はい、わかりました。</p> <p>むしろこのご時世やからね、素直に受けとめてくれはるやろうということでございます。</p> <p>それでは、ちょっとまとめに入りたいんですが、アンケートの対象については、先ほどの資料2でしたっけ、これでこの範囲の中で絞り込めるグループで、そんなにたくさんなりません。絞り込んだ団体の会長あてということで、一応確認しておきましょう。</p> <p>それから、この絞り込みの方法はこれですね、これをベースとするということ。</p> <p>それから、アンケートにとっても回答はできないような小さい団体に出しても仕方がないので、これやめましょうと。</p> <p>それからあと、具体的なアンケート内容については、ちょっときょうはかなりたくさん疑問出ましたので、もう一度これは作り直さざるを得ませんよね。それはひとつお願いします。</p> <p>それから、依頼文の内容については、この資料3であります、これ私の名前になってますけども、物すごい団体側に対して、ごっついサービス精神豊かな内容になって、それで後で削るねんどと言うたら、私恨まれるやないかという気がするんですけど。これはお任せしますわ。</p> <p>それから、各団体への配布時期、回収時期ですが、これはやっぱり逆算しますと急がないかんでしょうね。</p> <p>次回の審議会までに間に合わせたら、それちょっと無理でしょう。</p> <p>どうです。物すごい大急ぎな作業になりますよ。できますか。これはアンケート修正の作業もありますしね</p>
事務局	<p>次回の審議会が7月14日、その次が7月28日で、現在皆様からスケジュールをお伺いしてますが、基本的には8月18日でやらせていただきたいと考えております。</p> <p>このアンケートの案を出させていただいたのは7月28日の段階でアンケート集計結果をご提示できたという形で準備をしたかったというのですが、ちょっと今の段階では無理だということで、次回の審議会に向けて、事務局で再度検討させていただきまして、ここから8月18日の審議会に向けて、集計できるような形になればという考えであります。</p>
会長	<p>この件に関して、地域活動経験のある委員さんとちょっと対話しながらつくってみるのもいいかもしれませんね。これやったらこれに答えられるとかいうて。</p>

それをつくっていただいて、最終的には、今回もう時間がないということですので、いかがでしょ、私と副会長とにご協議くださって、それでもって事務処理的な面で詰めてしまうと、それをもって発送させていただくということで、よろしいでございますか。

それでは、その三者で責任をもってさせていただくことにいたします。

では、今回のご意見をいただきましたさまざまな修正内容を反映したものを発送することになります。

では、次回の審議会は、7月14日、午後6時30分、この庁議室ということでございます。

その議題につきましては、事務局様とも相談して、後日ご案内させていただきます。ちょっと今回、資料の送付が遅い目だったということで、きょうのご議論もちょっと余分めにかかったと思いますけども、できるだけ早く送ってくださるよう事務局さんをお願いしておきます。

あとですね、作業的には、先ほど私4点確認しました。その4点の作業が次々と残ってくるということを入れておいていただきましたらよいかと思いますが、とりあえずは類似補助金の整理、統合というのがまず第一関門かなということがきょう確認されたと思います。

ほかは別にデータの的にさほど整わなくてもですね、先進地の事例とかを取り揃えたら、ある程度政策的にモデルがつかれるかと思しますので、この類似補助金の整理、統合だけは、川西の実態をちゃんと押さえておかないとできないということで、このアンケートをするということで、ご苦勞をかけているわけでございますが、ひとつよろしく願いいたします。

それでは本日はこれもちまして会を閉じたいと思います。

どうも長時間ありがとうございました。